

中川根ふる里通信

= 第26号 =

編集・発行・モア!中川根
連絡先 〒428-03
静岡県榛原郡中川根町
上長尾897-6
郵便振替 中川根里通信係
口座(名古屋)7-81556



昭和31年秋、旧中川根村・徳山村合併により、中川根村誕生、高郷商店街を行く屋台、
写真提供、沢西光男さん

町制施行三十周年を迎えて

中川根町長 鈴木 久



母なる川、大井川が町の中央を流れる私たち中川根町の歴史、文化は繩文の時代に始まり、祖先の英知と努力によって、今日まで脈々と受け継がれてきました。

この大井川をはさんだ旧中川根村と徳山村が、合併したのは、昭和三十一年であります。六年後の昭和三十七年四月一日、町制が施行され、現在の中川根町が誕生し、本年、町制三十周年といふ記念すべき年を迎えることに至りました。

町制施行後も本町は、激動する政治、経済社会の変化の中で、幾多の困難と乗り越え、豊かな自然と、暖かいふれあいのある町として、輝かしい発展を遂げてまいりました。これは一重に、多くの先輩各位と町民の皆さんより立たなりぬご努力と、限りない郷土愛により、築き上げられたものであります。

こうした中で、新しい時代に向って、町をより発展させていくために、取り組まなければならぬ課題は、山積しており、扶道の整備と、社会資本の整備とはしめ、産業の振興、自然志向に対する観光の拠点づくり、高齢化社会へ向けての福祉と、販路拡大へ努めていかないと考えております。
温泉事業は、平成元年度以来、地上探査、空中探査と両面に渡り実施した結果、梅島下地区へ有望箇所が示されたので、本年九月より掘削着手予定です。温泉は、当地域の長年の夢でもあり、町民の皆さんからも期待が寄せられております。湧出の結果が得られれば、先ず町民福祉のための利用を考えたいと思いますが、更に貴重な観光資源として、自然と調和した活用を考えられると想ります。

昭和六十三年より取り組んでいます。

今、榛原郡下の大型プロジェクトは、着実に具体化、進展しつつあり、当地域にとって最も身近かなものであります。第二東名自動車道の建設、更に静岡空港の建設計画等、二十一世紀へ向けて、急速に変化を遂げつつあります。



南赤石林道周辺整備事業は、近年の自然志向に対する本物の自然を提供する事を目的として実施したもので、中でも県の木材活用モデル事業として、地元木枝と小川

(3)

んに使用して建設した宿泊施設「ウッドハウスおろくぼ」は、県内外から多くの人達が訪れ、好評を得ております。この施設を拠点として、大札山の山麓までの林道整備と、大札山一帯の整備を計画し、現在関係方面と協議中です。

現在役場庁舎を建設中ですが、現庁舎は建築後三十四年を経過しております。現状はかなり老朽化も目立って来ておりまして、平成二年度、庁舎建設審議会員を設置し、協議いたいた結果、山村開発センター（上長尾地区）隣へ移転改築を決めまして、昨年度より改築に着手しており、本年十一月完成を目指して推進中です。庁舎は、町のシンボリックな建物として、更に山村開発センターとの一体的活用を図り、事務効率・町民サービスの向上はもちろん、町民に親しまれるものとして、いきたいと考えております。

町制施行三十周年記念事業の主イベントは、十一月二十一日より二十三日まで、三日間を費し実施しますが、この中で、新庁舎落成式典、三十周年記念式典、恒例の産業文化祭等計画しております。今八月八日には整備された高郷地区前、大井川底床護岸の広場において、町内団体、そして町民の方々のご協力のもと、町青年団主催による「大井川清涼祭・花火大会を開催します。

以上町の現況等報告させていただき、併せ、三十周年記念事業につきましても紹介させていただきます。当地域には、多くの課題が山積しております。この三十周年という、大切な節目を契機に、町民の皆様と共に手を携え、一步一步着実に前進してまいりたいと、心新たに決意している次第であります。今後共皆様のご指導ご鞭撻を心から申し上げます。ごあいさつと改めます。

盛夏



大井川上空より、中川根町を望む。手前右、地名地区、上部中央上長尾地区、母なる大井川。



中川根村公民館における 会議風景、懐い顔、去し日々



あのころ

中野幸逸さん

下長尾

昭和三十七年四月一日 中川根町制施行記念式が役場二階で行なわれ、この公民館（昭和二十八年（））において、自衛隊音楽隊を招き、記念演奏が催されてから三十年の月日が過ぎ去った。

この公民館は、社会教育事業の一環として公民館活動の拠点とするもので、上長尾小学校の校庭の一隅に建設され、中川根村役場の唯一の大集会場であった。

七軒八起の達磨さんの幟帳は、当時の中川根村長、鈴木宗一郎氏（水川、故人）が寄贈したものであり、同村長が細綬褒章を受けて了説賛金も、ここで盛大に行なわれたものである。

成人式を始め、講演会、映画会、敬老会、その他役場の集会行事などは、ほとんどこの公民館を会場としたのである。

特に上長尾小学校は、入学式、卒業式はもとより、各種行事に利用するところ多かつたのは当然である。

中学校も体育館が新築（昭和四十一年）されるまでは、ここで入学式、卒業式を行なった。記憶がある。

昭和五十一年現在の中学校が新築され

るに当たり、公民館も閉鎖解体されたのである。

私も、川根茶葉組合の川根茶宣伝映画の試写会をした三十年代、学校教職員総会に教育長として参加一回四十代の思い出と、新たにするものであるが、町民の皆さんも、二十三年間にわたり大集合場としての機能を果してくれたこの公民館に、入りて経験を持つ方も多く、思い出深いものがであろう。



*ステージ上村長 鈴木宗一郎氏

上長尾遺跡出土 遮光器土偶 帰り里

中川根村公民館や、上長尾小学校校舎新築にともない、旧小学校舎、講堂が取りこわされたのは、昭和二十七年でした。昔から夕宮（小学校敷地小字名）には、「何かある」と言い伝えどおり、土器など多く出土されていました。六月二十二日、島田高校郷土研究部によつてトレンチによる発掘調査が行われ、龜が岡式の中空土偶がほぼ完形で出土しました。

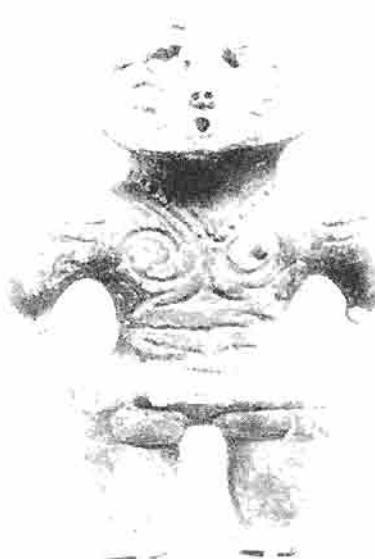
この土偶は、遮光器土偶とも呼ばれ、目の部分が北米エスキモーの使用している雪の反射光を防ぐ遮光器に似ている為、名付けられました。上長尾遺跡は、縄文晚期（後期）と言われていますが、中部地方、同期遺跡からの土偶の出土例は少なく、又、遮光器土偶にかぎって言うと、東北地方がそのほとんどだと、言われています。この土偶が、同地でつくられたと言う

説は、きわめて否定的ですが、今だどこで地の土であることも判っておりません。里帰りヒトモトモ、島田市博物館が今春（五月）オープンされ、その開館記念展に同館に約一ヶ月陳列されました。

東京国立博物館においても、常時見られるものではなく、この機会にと、中川根の人達も多勢見学致しました。

はるかな昔、神に祈る時の器、又人が難をのがれる為に土偶が身がわりになつたとも言われています。

やさしく、少しあびけな目、所々に残された朱色、新たな感動をよびおこして



高さ 26.8 cm 肩幅 20.5 cm

上長尾遺跡出土遮光器土偶

東京国立博物館所蔵

特集 德山城も三回目となりました。専門分野の文献でするので、必ずか一い点も多いかも知れませんが、我が小る里の、あけほの、とも言える史実ですので、どうぞお付き合下さい。

無双連山を中心とする諸城址の研究九

沼館愛三

徳山城は本城と中心として第三十五号徳山城関係図にも記されている様にたくさんの支城、砦がつくられていました。それらをかいしまで載せてみます。



支

(1) 護應土城

本城の起源は他の支城と共に詳かでないが、土岐氏一族の居城であったことは確かである。正平八年(文和二年)一三五三・二月十三日、南北両軍の激戦地で、敵将伊達景宗が城内に切り入り負傷した处である。これは薬科方面より川長井、無双連山、智者山方面に通する分岐点に当たり、いずれに進出するにも必ず通過しなければならない地点である。今は富士城という小部落ができるている。

その遺構は智者山より南下して来た尾根と高山より北上して来た尾根を連絡する中間に当たり、標高九四〇m、東西約三〇m、南北約一五〇mの地域で規模広大ではないが、尾根上を主部とし、南北に各三段の郭がある。

(2) 萩多和城

当城の位置は、大川村字日向萩の平にあるといふ。(現静岡市)現在萩多和の地名は見当らない。日向部落の西北約四〇mの薬科川の右岸で、尾根の末端が川に臨んだ處と今は城山と呼んでいる。東西三五〇m、南北二〇〇m、高さ約三〇mの小丘に過ぎない。

正平八年、伊達景宗が薬科口に転進し、当城を尾根の方より背面攻撃をなして、陥落させた。又同地は、今川氏真が武田軍に追撃され、土岐の山家に越す時、これを防ぐため一時に拠り、一部を坂上(日向南方約一里)に出して防戦したものと破れ、城山も陥落、遂に小長谷に向かい、退却したのである。この城山が、秋多和城であるか否かは確証は出来ないが、地形的に見て、この辺にも、城砦があるのはあるまい。

(3) 畦間城

当城もその起源詳かでないが、城の型式からして、建武の頃(一三三四年)の築城であることはほぼ推察される。今川氏時代に至り、石上鬼角之助の居城と伝えられ、その遺構は明らかに残っている。

当城の大手は、畠間に上字石神の東福寺南側で、北方よりの尾根が東福寺に向かって突き出した尾根上に、構築されたものである。区城を大体居館と本城とに分けると、兩者とも同じ尾根上にあるが、居館の地は東福寺東北約百米、龍爪神社境内で、広さ約五〇m四方である。それより一二〇mの坂路と北方に上がりれば、幅約五mの堀割があり、それ以北は本丸の区域である。

本丸は東西約二五m、南北約二二mの地域で、規模狭小でも尾根を掘削り以北幅七m長さ四〇mの狭長な尾根を経て幅五mの堀があり、城北を限り、搦手をもつていて、居館本城を通じて東西两侧共小流があつて、浸食も進み断崖をなし、攀登不可能である。これと隔てて、西側には、低年の台地があり、小学校東福寺境内と共に根小屋の地である。

特集 德山城 その3

(4) 相保砦

上相保、北方約八呂口、標高四九二mで、南北約三五口、東西約三呂口。傾斜急峻要害堅固である。今は陣場山と呼んでいる。これと相対して、上相保西方約六呂口高地區にも、陣場山と称するところがあり。土岐、今川両軍対抗の處と伝えられている。(現静岡市)

(5) 小長谷城

当城は岸と藤川との中間(本川根町・旧東川根村)天王山と称する丘上にあり、広さ二呂口mで頂上に平坦な処がある。大手は大井川に近いほうにあり、北方及び西方は断崖絶壁をなし

南方は深谷入り込み、東面は傾斜比較的緩やかなるも塹割があり、要害堅固である。中央に神明牛頭天王が祀られている。

これは、小長井山城守が城の鎮護として勧請せるもので、此の地が古の本丸の地である。又、古井戸の址もある。当城は別称を徳谷城と云う。徳谷は土岐の谷の意である。

(6) 塩郷砦

徳山村鹽郷駅の東北方向へ、約五呂口れいづた標高四二呂mの高地で、今は城山と呼ばれている。ここは多分土岐氏が、大井川筋の抑えとして一時的防備をなせる陣場の砦であろう。

四、諸城の価値



(1) 地形、交通

徳山城を中心とする地形一帯を観察するに、大体に於て、大井・藁科両河の中間地域で、山巒重疊、起伏極りなく、僻地寒村、交通不便、加えるに物資に乏しく、霸を天下に稱すべし、地ではない。しかし地形の嶮難は、防者にすぶる有利であることは言ふまでもない。大井・藁科両河の河谷は、溪谷迫りて、交

通不便、北に智者山、天狗石山、七ツ峯などの高峯そばに立ち、北方より脅威を感じると少なく、南方は笠間川、瀬戸川、河内川などの渓谷の外は、通過ほとんど不可能で、加えるに諸処に断崖急端ありて橋梁なく、その当時の通過の困難などとは、実に想像に余りありである。その山稜尾根を通じる羊

腸たる小径は、現在はとても通過極めて困難な状態である。徳山城を中心とする交通網は、おむね河川渓谷に従うもので之を大別すると次の如くである。

(1) 大井川筋に沿うもの

島田駅より伊久美川の渓谷に沿い、白井・大森の辺りより枝松峠を越えて、笠間川の渓谷に入り栗原・久

野方面に出るもの

(2) 藤枝より瀬戸川渓谷に入り中山・滝沢より枝松峠を

経て伊久美村中平にて前記の道路に合するもの

(3) 藤枝より瀬戸川渓谷をめぐり市之瀬より舟入保を

経て笠間村・久野方面に出るもの

これらの諸道は、大井川筋のものを除く外は、大体笠間村栗原・久野通りにて合する。故に此の合一後の位置に城郭を設

定する必要を生ずる。そうなければ敵の包囲攻撃を受けることとなる。而して前記諸道の中、その主道となるものは、

島田・相賀・大間・笠間道、即ち前記(2)に当るのであるから、無双連の本城よりあまり遠くない處に支城を置く必要を感する。それが石上城である。もし此の支城が無ければ、

攻者は容易に栗原・久野の線に到着し、無双連山より四方に派生する諸山頭を利用して、近接が容易となるわけである。

島田より大井川筋に沿うものは、途中より支流、上河内川

益間川の渓谷をたどれば、前記のものに合して益間村に出で、更に大井本流に沿い北進し、下泉より河内川の渓谷に出て、壱町河内・文沢に接近することはできる。この道を攻者に利用されることは、徳山城としては相当の打撃はあるが、道路険難通過困難で、とくらに壱郷城山の砦に於て、これを拒止することができるのである。

徳山城以南の交通路は、そのほとんど全部が、河川の渓谷を通過しているのに対し、それ以北の交通路は、ほとんど全部、山稜尾根を通している。即ち天狗石山・智者山より派生する尾根の幹線は、南下して高山より黒双連山に及び、その支線は、ほゞこれと直交して東西に分派し、薬科・大井両河に迫っている。その幹支線ともに尾根上には自然に道路が発達している。從つて幹線上に於ける高山・合土(今の富士城)などは、幹支兩線の直交する處で最も重要な地点である。ことに合土(護應土)に於て然りである。故に合土に築城するのは自然のなりゆきで、もし之を久くとすれば、直ちに黒双連本城の北方、高山にようやく近接せらるるのである。

薬科方面より前記の幹線に到着するには

- (1) 八幡より八伏・蛇塚を経、洗沢・合土に至るもの
- (2) 坂の上より杉の尾を経て、洗沢付近に至るもの
- (3) 日向より薬山・南方・高山を経て、洗沢に至るもの
- (4) 更に北方に迂回して樽尾より八草を経て合土に至るもの

などがあるが、いずれも洗沢合土に於て合する。從つてこれら諸道に対して、護應土城の位置は、戦術上より見て極めて緊要なるは言を俟たない。

薬科河谷より川根方面に出る古道は、日向より西方山地に入り、洗沢を経て小長井に通するものであつて、八幡より蛇塚を経て、洗沢・小長井にあるものは、長大なる坂路で、前者に

比べて極めて不便であつた為、あまり利用されなかつた。かかるわけで、薬科河谷に於ける川根口たる日向付近に、萩多和城が築かれたのは、地形上当然である。

徳山城以南の道路を取り近接する攻者は、おおむね益間村・栗原及び久野の線に到着するといても、その西方にそびえる屏風の如くそそりたつ黒双連山の峻嶮を、よじのぼつて近接する、とは先ず不可能である。又、河内谷より壱町河内に侵入するも、前記と同じ結果となる。從つて唯一の近接路は、比較的容易なる北方に求めらるる見えなく正平八年伊達景宗が益間付近より東す薬科口に出で、更にその河谷を北進し、本城北の諸城を攻略するには、戦術の要諦に合致せるものと云うべきである。

故に黒双連山を本城とするならば、護應土(高人の防備)、一層努力を傾注すべきであつた。その上、安倍城・狩野城・繫瀬なる連繫を保持しつつ、相保付近に堅固な防備を施せば、薬科方面よりの迂回が不可能であつたかも知れない。

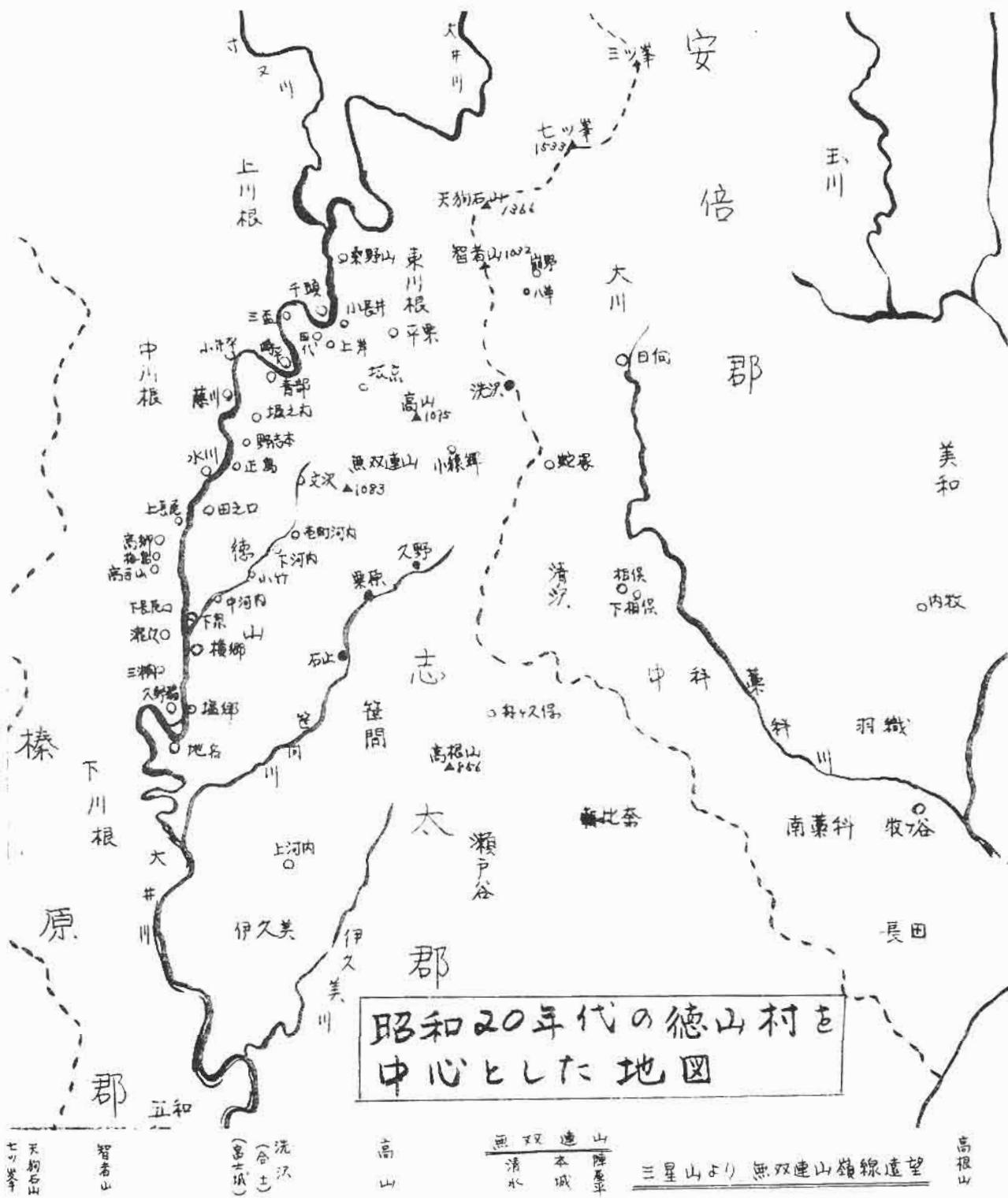
以下次回号に続ります。

「余録」

次回号にて、徳山城關係は終了致す予定です。沼館先生の研究者(いまよ終盤となり、結論へと進んで行きます。又、つたない現地調査レポートではあります)が、現況などもお伝えしたいと思います。なお、黒双連山の言い方は

ムソレ山とムソオレとも

呼ばれていたと聞きました。江戸時代文書には、黒双嶺となつてあります。



今、注目されている 緑茶



健康は、私達全ての願いです。しかし、健康といふことは、水や空気と同じく、意識しないかかり、ほつきり、とうえることは出来ません。病気になって、はじめて、健康を感じるのかも知れません。

私達の体は、毎日三回の食事から食物を取っているほか、一リットル二リットルの水分を必要としています。その水分は、食物からも取れますから、飲料として、全て必要ではありませんが、一日平均コップ五杯以上飲んでいいそうです。

お茶が体によい、胃がんの予防になる、老化防止など、県立大学の小國伊太郎教授が発表されて（特に、中川根町民の健康状態を比較して）、注目される様になったのは、数年前からのことです。

そうやってみると、体に必要な水分の大部分を、お茶を呑む事で、補っている人と、その他のおみ物の人と、知らず知らずの内に、差が出来ている、とになります。

食習慣というのは、不適心議なもので、子供にとってはあまりよくない、言いかえれば、マズイお茶も、次第になれて、食事時にお茶を呑むのが当たり前になって来ます。この様にして、茶産地中川根の飲みものは大人はもちろん、子供までお茶が主体となっています。一世帯平均ハーフkgのお茶（一年間）を消費すると言いますから、産地ならではの、ぜいたくかも知れません。しかも、急須に湯山お茶を入れ、一日に三回は入れ替えるなどと。

しかし、コーヒー、紅茶、清涼飲料

品なのです。

呑むお茶 そして 食べるお茶

お茶を沢山呑みましょ。そして少し食べましょ。この事ご存知でしょうか。呑む（煎じた湯を呑む）事は、茶の葉を直接体内に取り込む事ではありません。呑む事でもビタミンC、カルシウム、食物繊維がたっぷり取れる事が判ってきました。特にお茶を急須に入れて煎じたあと（何回か）、茶の葉は数倍にふくれ上っている現象。あの様な状態が、胃や腸に、誠に良いのです。しかも、ほんの少量で良いとの事です。（小さスプーン一二杯）

では、どの様にして食べればよいのでしょうか。

中川根では、茶ようかん、茶もなかなどお茶を使った菓子が、ずっと前から研究・製品化され、全国的にも有名です。が、京都の方で最近、茶の葉のジャムがつくられたと言われます。毎日の食卓にもお茶を取り入れる事が出来ます。今迄も、茶飯、お茶で炒飯、粉茶をかりかけにするり、天ぷらの衣に粉茶とませる新芽芽の天ぷらなどあります。生ゴミになるべき茶がらを有効利用する方法もあります。また、お茶と一緒に煎った後、茶がらを取り出して小量の油でいためます。水分が無くなったら四に取り、チャーハンの具の一部にしたり、煮物の上にぶりかけます。又、油でいためす、空りりて塩しあう油で調味したものもけっこういただけます。

お茶の薬効は、呑む以上に食べる事で向上します。よりおいしくお茶の食

川根茶業青年団一万袋（ティーパック）
丁のじに贈りました。

べ方を研究され、お茶入り料理があなたの食卓に上がったらいいですね。

中川根町イメージソング

君に

焼津市小川恵吉(田野口出身)

おはえていますか
空の線にまじわる

山の連なりや
段々畑にならつた

なつかわねの
家なみを

いま 春には

赤と白のヤシオの花が咲き、

おはえていります。
道するべのようす
かかる吊り橋や

流れが変わつても盡きない

おはえていります。
道するべのようす
かかる吊り橋や

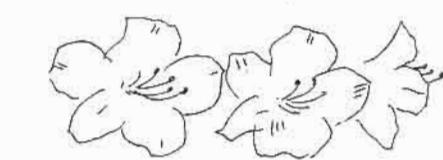
流れが変わつても盡きない

おはえていります。
道するべのようす
かかる吊り橋や

おはえていります。
道するべのようす
かかる吊り橋や

流れが変わつても盡きない

おはえていります。
道するべのようす
かかる吊り橋や



町制施行30周年記念誌 あゆみ

町内の家庭には配付されますが、
購入ご希望の方が多いいらっしゃいましたら、
ふる里通信係までご連絡下さい。
価格は2,000円位です。



いま 夏には
ローカル線の無人駅にも
人の笑顔が
増えています。

おはえていります。
道するべのようす
かかる吊り橋や

流れが変わつても盡きない

木々の間から見えてくる
光と影は
夢のかたちです。

おじ自分の歌として口ずさんでみて
よい作品が出来たらご一報下さい。



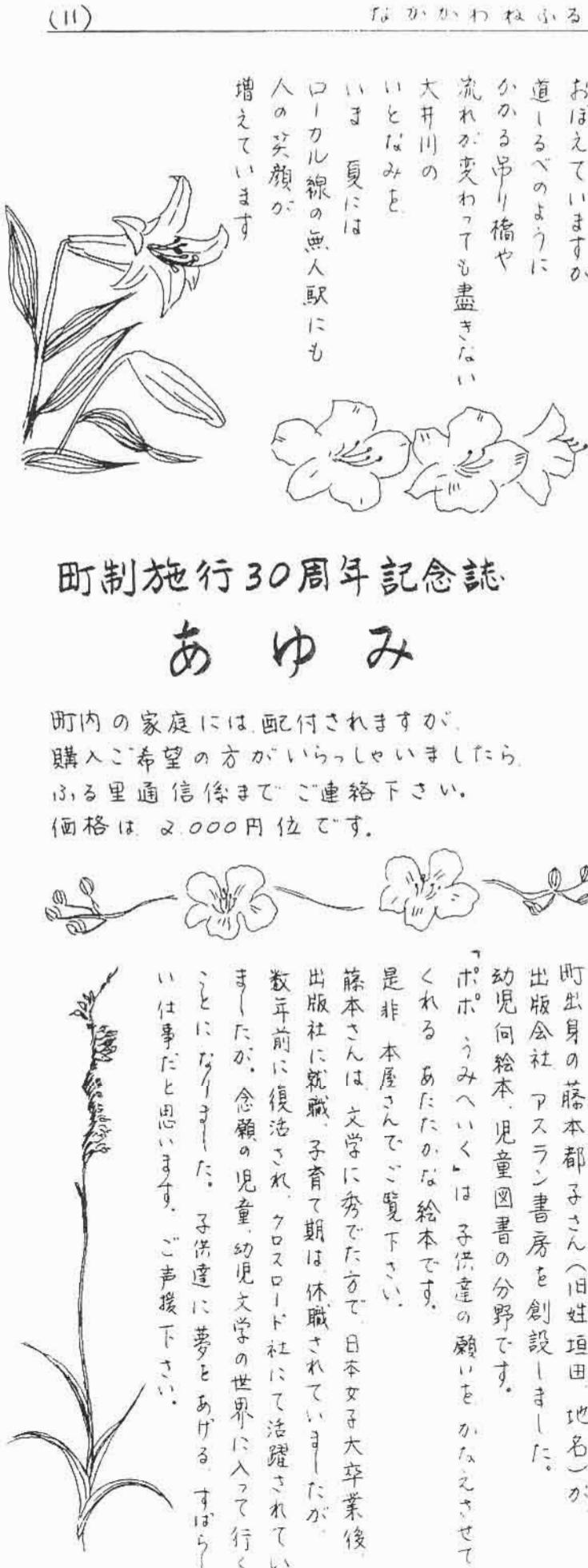
ヨアンナ・クシチンスカ作
発行所 (株)アスラン書房

1,400,-

ポポ うみへいく



ヨアンナ・クシチンスカ



定期講読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 テ共 150円

皆様の定期講読がふる里通信の発行を支えます。年間4回(季刊誌)の発行を予定しております。今回で講読期間の切れる方には郵便振替用紙と同封致しますから、引き続きご購読をお願いします。年間予約600円のご送金をおすすめします。

住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

払込通知票

口座番号 名古屋(7)-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先 及
発行責任者

428-03 静岡県榛原郡中川根町上長尾859-6

小沢節子

TEL. 0547-56-0015



梅雨明けと同時に猛暑がやってきました。
静岡県佐久間町で最高:一度を記録しました。このニースが流れます。中川根にはアメダス観測地はありませんが、右にならえです。
緑豊かな小る里も砂漠になってしまいそうですが、朝夕は涼しくて昼間は少しがれをいやして
くれます。

夏休みに入り大井川も釣り人、川遊びをする子
と終日にぎやかです。

皆様のお越しをお待ちしております。



白羽山頂上に展望台が出来ました。
この山にはNHK FMの局が出来るほど南北に開けてあります。
三機の双眼鏡からは南アルプスや御前崎、駿河湾が望めます。歩いて行けば最高ですが、自動車も行ける様になっています。ウッドハウスおろくぼに泊って星を見るのもステキです。里では見られない美しい星空が見られます。
この季節南の空にさそり座が輝いて、

中川根ウッドハウス尾呂久保 TEL 0547-56-1100

予約制

プロ野球ご覧になりますか。今年のセ・リーグは首位争いが熾烈でおもしろいですね。特にタイガースが強くて、

さてタイガースのストップバー田村投手は川根町家山出身のです。(島田高校卒)、又同町出身ライオンズの山本投手も(川根高校卒)期待されています。又榛南ですが、カーブの片瀬投手(榛原高校卒)も活躍しています。
どうぞふる里の選手を応援して下さいね。

町制施行三十周年記念行事が始まります。
八月一～二日にかけて、三十時間マラソン野球大会、
八月八日には大井川清涼祭、盆踊り、花火大会、
十月には町民体育大会など、十一月の記念式典の前哨行事が予定されています。

時代と共に町民が一同に集まる行事も少なくなってきました。町出身の皆さん、この様な開会にふる里に来て見て下さい。懐しい顔に逢えるかも知れません。

発行がおくれて誠に申しわけありません。